記者発表資料

平成24年10月25日
国土交通省　酒田河川国道事務所

庄内平野の３割10,700haの米の収穫に貢献！

～今夏　最上川さみだれ大堰が果たした役割～

最上川さみだれ大堰では、施設設置当時の目的の一つである、農業用水の安定した取水について、少雨傾向となり河川の水量が低下した今夏においても、施設が十分機能し安定した取水を確保しながら、かんがい期を終了することができました。

平成24年8月には、少雨傾向から最上川の水量が低下し、8月5日には65m3/sと平成7年のさみだれ大堰運用開始後最小の水量を記録しました。

さみだれ大堰により安定した取水が行えた施設は、最上川取水口（かんがい面積5,669ha）と、草薙頭首工（かんがい面積5033.6ha）で、庄内平野の約3割にあたる米の収穫に貢献することができました。

発表記者会：酒田記者クラブ・鶴岡記者会

問い合わせ先	
国土交通省　東北地方整備局　酒田河川国道事務所	
酒田市上安町１丁目２番１号	
TEL　0234－27－3331（代表）	
副所長（河川）	阿部（あべ）　富雄（とみお）　（内線204）
調査第一課長	鴫原（しぎはら）　吉隆（よしたか）　（内線351）

今夏　最上川さみだれ大堰が果たした役割
～庄内平野の3割10,700haの米の収穫に貢献！～

○今夏は少雨：酒田の8月の雨量は平年の25%、1937年の観測開始以来4番目の少なさ

○最上川上流では18年ぶりとなる渇水→農業用水を20%節水

○さみだれ大堰でも平成7年の運用開始以来最小の流量を記録（8月5日：65m3/s）
　8月の平均流量は過去5ヶ年平均の34%と非常に少なかった

○8月は稲の生育にとっても穂ばらみ～出穂～登熟期にあたり、水が欠かせない大事な時期
　→さみだれ大堰により最上川取水口と草薙頭首工では安定した取水を確保
　（※最上川取水口：かんがい面積5,669ha、草薙頭首工：かんがい面積5,034ha）

◎最上川の水位と堰の取水位模式図(65m3/s流下時)

